

[ガバナー補佐からのメッセージ] IMの将来について



IM第6組 ガバナー補佐

山田英男 (大阪城北RC)

IMの将来像を語る前に、現状において気になる点をひとつ申し上げておきたい。

ロータリージャパンのホームページには「IMはガバナー補佐(=Assistant Governor、以下AG)が主催する場合が多い」とある。当地区においても概ねガバナーまたはAGが主催して行われているようだ。その一方で、企画から運営まで、ホストクラブを中心に進められているのが現実だろう。

しかしそれはそれでいいと思う。第一義的にはもちろんホストクラブが会員の英知を結集して自由に行われるべきだ。ただし、主催者であるガバナーやAGも企画段階からある程度かかわっておく必要はあると思う。IMは地区大会に次ぐ大きな地区行事に位置付けられると考えるからだ。

とはいえ、ガバナーがすべてのIMにかかわるのは現実的ではない。ここはAGの出番である。ホストクラブとAGが連絡を密にしたうえで、進捗状況を毎月開かれるAG会議でガバナーに報告する。一方、組ごとに開かれる会長・幹事会で各クラブにもその内容を伝える。そしてガバナーや各クラブからの意見やアドバイスがあれば、ホストクラブにそれをフィードバックする。こうして地区や各クラブと情報を共有することで当事者意識が高まり、IMが活性化するはずだ。動員の苦勞も解消できるかもしれない。

これまで我々はIMをホストクラブ任せにしすぎていたのではないだろうか。その原因のひとつは、ホストクラブとAGの所属クラブが異なることにあると思う。現状ではAGではなく、AGエレクトの所属クラブがホ

ストクラブを務めるケースが多く、私の所属する6組も同様である。これだとコミュニケーションがとりにくかったり、お互いに遠慮したりで、企画をスムーズに進めにくいかもしれない。十分な話し合いがなければ、AGがホストクラブの事情を理解しないまま準備を進めることになり、トラブルの原因にもなりかねない。

そこでAGの所属クラブがホストクラブを務めることを検討してはどうだろう。当地区内では第5組はすでにそのやり方を採用しているようだ。

福家ガバナーはIMについて、かつてこう発言された。「IMはそれぞれ各組が自由にやってください」。これは、AGとホストクラブがやりやすいように、そしてわれわれを信頼してのお言葉だと思う。そのご意向に従い、われわれは自由な発想で主体的にIMの準備を進めていけばいいと思う。

議論の余地はあるだろうが、これからのIMにはもっと多様性をもたせてもいいかもしれない。現状では講演やパネルディスカッションというスタイルのものがほとんどだが、実はIMのテーマや形式に制限はない。多彩な人材が集まるロータリアンは職業も考え方もバラバラ。この多様性こそがRCの魅力といえる。ロータリアン同様、IMにももっと個性や多様性があってもいいのではないだろうか。

IMはクラブを超えてロータリアンが広く交流できる貴重な機会だ。一定のルールを守り、RCのポリシーから大きく逸脱しない限り、新しい発想で新しいスタイルのIMに取り組んでいくことこそが、これからのIMを魅力あるものにするうえで不可欠だと考える。